

1. 交付金事業の名称 原子力・エネルギー教育支援事業交付金事業
2. 交付金事業の事業主体 福井県
3. 交付金事業の実施場所 福井県
4. 交付金事業の概要

原子力・エネルギーの学習に必要となる以下の内容を実施した。

【県事業】

(1) 実験器具・実験材料の整備

ペルチェ霧箱や簡易放射線検知器、クルックス管等を整備し、原子力発電・原子力安全工学の学習に活用した。

(2) 施設見学の実施

福井原子力センター、美浜町エネルギー環境教育体験館「きいばす」等を見学した。

(3) 講演会の実施

有識者による原子力・放射線、発電・エネルギーに関する講演会を実施した。

【市町村事業】（福井市、大野市、勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町、越前町、美浜町、若狭町）

(1) 実験器具・実験材料の整備

風・水・火力発電学習セットやボルタ・ダニエル電池実験器等を整備し活用した。

(2) 施設見学の実施

美浜町エネルギー環境教育体験施設「きいばす」等を見学した。

5. 交付金事業に要した経費及び交付金充当額

事業に要した経費 31,168,759 円

交付金充当額 31,168,759 円

6. 交付金事業の成果及び評価

当事業により原子力・エネルギーについて児童・生徒等の理解が促進されたと回答した割合【理解度】は、実験器具・実験材料の整備事業が目標 90%に対して実績 80%、施設見学事業が目標 80%に対して実績 88%、講演会事業が目標 80%に対して実績 89%だった。原子力・エネルギーに関する教育のための環境整備として当事業が促進されたと回答した割合【満足度】は、実験器具・実験材料の整備事業が目標 95%に対して実績 88%、施設見学事業が目標 90%に対して実績 96%、講演会事業が目標 100%に対して実績 100%だった。

今年度、実験器具・実験材料の整備事業や講演会事業の【理解度】【満足度】ともに実績 80%以上の成果を上げた。この実績から、本事業によって、学校現場では充実した教育環境につなげることができており、環境・エネルギー分野の学習を深める上で十分に活用できているといえる。今回、実績 80%以上の成果は、高い水準ではあるものの実験器具・実験材料の整備事業が目標値より下回った。この要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響や物価高騰の影響を受け、流通が滞ることなどで予定されていた実験器具・実験材料の納品時期が遅れた事例があり、本来学校が活用したい時期に使いなかつたことが考えられる。令和5年度以降は、購入した実験器具・実験材料を本来使用したい時間に効果的に活用していくことで【理解度】【満足度】が上がると考えられる。

また、施設見学事業についても、【理解度】【満足度】とも同じく実績 80%以上の成果を上げた。今後は、感染状況による影響を受けにくいと考えられることから施設見学の計画を立てていくようにしたい。全体的に本事業を実施したことにより、原子力・エネルギーに関する教育のための環境整備が促進されたと評価できる。